磐城新聞

（廿二日夕刊）

休刊 大祭日 第三日曜
定價 壹ケ月 五十錢、郵税十錢
廣告料 一行五十錢（指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

隨筆

「オレが…」

間 高太郎

「オレが倶樂部」といふものがあると聞いた、それは倶樂部員が皆天狗の集りで何かやらうとすると皆「オレが」「オレが」といつて出娑婆るからだといふ。

「オレが」といふ傾向は然かし誰れにでもあるものだと思ふ小にしては餓鬼大將より大にしては大臣宰相に至るまで皆「オレが」の發露ではないか、立候補なんといふ事は「オレが」の尤も露骨な露はれと見る事が出來るだらう、これあるがために人間は向上もし進歩もする、而して闘爭も戰爭もこれがために生ずる、あらゆる社會限象は見様によつては凡てが「オレが」の錯綜を見る事が出來るであらう。

數人集まつて雜談に花を咲かす時でも中には吃度「オレが」を發揮して話題の中心を凡て自己に引きつけたがり自分を凡ての人注意の焼點に置きたがる様な人があるものだ「オレが」とか「オレが前任地では」とか「オレがやつたとき」とか「オレが」とかいふところでは「オレが」「オレが」とか何でも發揮したがる、稚氣愛すべき場合もないではないがあまり露骨になると聞く方で一寸氣持の善いものではない。

事を圓滿に運び平和を維持して行くには「オレが」といふ我は抑制しなければならないものゝ様だ。

ひら、ひらちるよ

明日の吉凶

舊暦三月十四日　新暦四月二十三日

▲一白　目前の小利にあくせくせず永遠の計を立つべし▲二黒　前後をかへり見ざれば逆運に見舞はるゝことあり▲三碧　物に動せず根氣強ければよき一日たるべし▲四綠　塵も積れば山となる萬事怠るまじ▲五黄　正しと思ひし事も先づ識者に問て後行ふべし▲六白　人一倍の勞を端むときは運氣自ら吉となる日▲七赤　働我を愛するものと思ふべし▲八白　根氣強く働けば貧乏神は忽ち逃げ出すべし▲九紫　初めは上運なれど注意せざれば後は凶

講談 幕末

(214) 渡邊默禪作　宮野歌春畫

「え、本當か」と梅に又ゝされて

「そいつはいけねえ、困るよそんなことをされちや」

「おや何故?どうして困るの?」

「だつてお前雪さんは女、俺は男だらう」

「それだからいゝぢやありませんか」

「獨者に獨者だ」

「丁度お誂えでせう」

「人にいろんなことを言はれるせ、猫に鰹節だなんて」

「結構よ、言ふ奴に言はせて置いて御遠慮なく澤山おしやぶりなさい」

「人間が喰へるかい、馬鹿

「食ひ様がありますとさ」

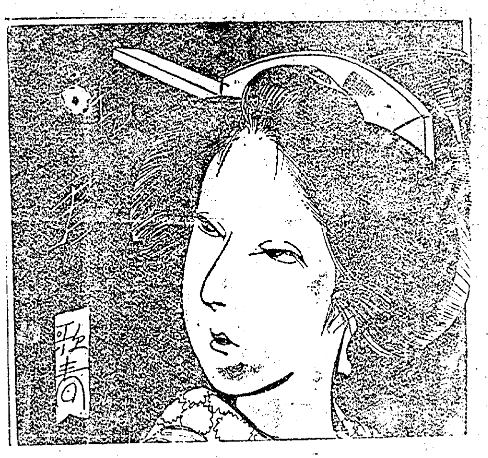
「男女七才にして席を同うせずだ、錢湯へ行つて見ろすから上の子供は親が伴れて行つても男は男、女は女とチャンとより分けるせ」

「カラスはカラス、白は白かへ屑屋の様だわね、ちよいと……梅さんお前も察しのない人ね、大抵素振りでも讀めそうなもんだ、雪さんの思は今日この頃ぢやありませんよ、可哀想だと思つたらどうかしてやんなさいよ、この事ね良人もう承知なんだからお前の胸一つで決まるんぢやありませんか」

お君は必死の外交談判、此處を先途と切り込むのである、雪江は男の方を背に少くこごんで白絹の汗巾で顔をかくし乍ら化石の様に固くなつてゐる

「ふむするとなにか勘太郎さんも承知の上でこの雪江さんを梶原へ……」

「そうさ不束者ですから御氣には召しますまいが、一生御面倒を見て下さる様に此ゝ姉からもお願ひします



梅は腕組して考へてゐたが、やがて顔をもたげて

「お君さん、そうまで言つしやるからには、滿更の冗談でもない様だから私も眞面目に挨拶しますがね」

「はい!」

「雪江さんをお貰ひ申すとは、折角だが御斷り申します」

「えッ!」

きつとなつて素氣なく言ひ放つた一言にはお君も雪江も尠からず驚かされて思はず顔を見合せた

「そ、そりやどう云ふ譯です、梅さん」と、お君はしやがんだなりに急はじくすり寄つて

「以前と異つて今は武家の御身分だから町人風情の藤屋との縁結びは眞平だとおつしやるのか、又此のお雪さまが御氣に召さないのかそれとも私が仲へ這入つておすゝめしたのが悪いのかそれを遠慮なくおつしやつて下さい、成程藤屋は町人に異ひありません、でも將軍様直參の旗本衆や御譜代大名の御屋敷へずつと昔から出入をした御用達で江戸でも株の舊い家柄ぢやありませんか並の町人とは異ひますよ、お前さんもこの先どう出世するかわかりませんが藤屋の娘を嫁に貰つたからつてまさか恥にもなりますまい、お顔の潰れる様なこともありますまい又お雪さまに不足があるなどと仰つしやつたらそれこそ罰があたりますわ、固い御屋敷で躾けられて女に入用なものゝない利潑な方ですもの何處に指をさすところがあるでせう、あつたらそう言つて御覧なさい」とお君は云つた

「直線の街」を讀む（下）

――代是夫君の處女歌集――

松村清

黄昏の中に
さわつてゐると
すゝきが自分の心になつてくる

×

侘びしい日
マアブルな女の横顔に
雪が降つてくると思ふ

石川武夫君の詩にありさうな鋭い感覺がつゝ張られてゐる。しかし歌として、價値はどうかと思ふ。歌以外の領域に行つて了つた感がする。

×

雨のふる曠野を軌る
夜汽車の中に
錢を數へてゐる旅藝人の
娘あり

これでは一つの單なる短文以上に出ない拙ない表現である。

錢を數へてゐる旅藝人の
娘あり
雨のふる
曠野を軌る夜汽車の中に

生じてくるリズムに別趣なやわらかさがいく分か變つてくる

『作歌の場合、舊來のイデオロギイを全科玉條視し』『歌語を必要とする五七五七七の形式によ』る理由はさて置き、三十一字を基調として、完全に咀嚼し得ぬ父、我々の生活の胃腑とその發想時、境地に、ぴつたり合せた口語、使句、より錯雜な詩的内容に乏しい口語使句の煩雜を避けず遂に意識しつゝ強ねて白眼視する必要と理由はないと思ふ。

その意味に於て代是夫君の作歌態度が、非常に自由な立場から作歌されてゐる點は結構であるが、もつと純一な個性を生長さすべくは、個性が一貫する形式的に統一された作品を近き將來に期待する。

亡友柿沼一好が口語歌へ入りそして『將來の短歌は從來の形式を破つて、吾々の常用語が有する最も自然な音律に隨つて一定の制限を置くべき』と云ふ定義のもとに口語の使句に異常な努力をした。

要するにこの様に煩雜極まりなき常用語をこの小詩型の中に生かすことは既成歌語を生かすより以上むづかしいことである。

はなはだ獨斷的讀後感であるが、惡からず御笑讀をれ願する。

因に光と影社は松本、石川、島田君らの作集を讀刊する計劃ださうです。皆無代價頒布です下記へ申越されたい（平町月見町二七光と影社出版部）

童謠集

（さくら）

尋常三學年　二宮淳

さくらさくらは
おどりがすきだ
ひらひらおどつて
ちつてくる

同　松崎良任

さくら、さくら
風ふくたびに
ちら、ちら、ちらと
雪のやうに
あたまへかゝる

同　松本弘

さくら　さくらが
ちつてくる
風にふかれて
ちつてくる
雪のふるやうに
ちつてくる

同　石橋義次

風がそよそよ
ふいてくる
さくらが散つた
氣の上

同　新妻正一

さくらの花は
雪のやう
風が吹くたび
ちら、ちらと
蝶々のやうに
とんでくる

同　古市三郎

ちる、ちるさくら
いつもちる
今はさくらの
花ざかり
には一ぱいに
花がちる

同　渡邊潔

さくらの色は
赤い色
きれいな　きれいな
さくらの花が
風に吹かれて
ひら、ひらちるよ

貸切自動車の御用命は
昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い
昭和タクシー
平驛前
電話は三四三番（サシミ）

高久病院
平町田町
電話五一三番

お花見には
銘酒 ○○の盛 瓶詰
△先約五千ケ限り
△花見手拭付二合瓶詰　盃付　三十錢
永山酒造店總發賣元
平町四丁目　電話二〇七番

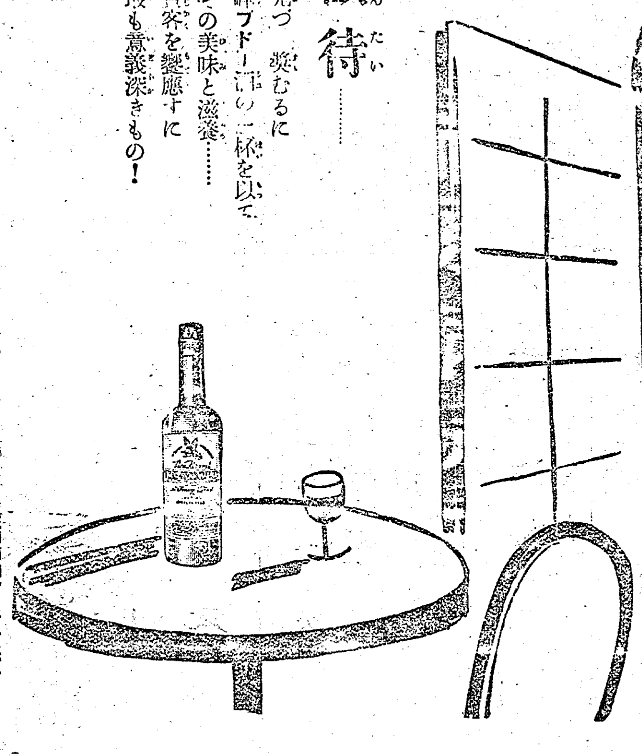
内科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平長五〇七番

優秀なる最新型腕巻時計
蓄音器
眼鏡
各種レンズ
各國時計
ダイヤ
指輪
裝身具
貴金屬御注文製作品早く良奉仕的特價に致します
鐵道省御用
クジヤク印蓄針特約店
金光堂時計店
平町五丁目　電話七三六番

宮内省御用達
ヒゲタ醤油
釀造元　銚子醤油株式會社
特約店 廣瀬支店
平町田町
電話五四番

平町紺屋町
吉田眼科醫院

歡待……
先づ奬むるに
蜂ブドー酒の一杯を以て
その美味と滋養……
賓客を饗應すに
最も意義深きもの!



蜂ブドー酒
『蜂印香竄葡萄酒』といふ名稱を
當局のお奬めに依り且は時勢の
推移に鑑み今後『蜂ブドー酒』
と改めます　なほ市場にある從來
のものは其儘として御安心の上
引續き御愛飲を願ひます
合資會社近藤利兵衛商店

營業種は
石炭
コークス
玉炭
磐城第一ノ石炭トシテ自他共ニ推稱スル
◎磐城炭礦ノ最上石炭
一、正味十貫目入　壹俵　金六十五錢
◎日本デ一番評番ノ良イ東京瓦斯コークス
一、コークス　壹俵　金壹圓三十錢
◎木炭ノ三倍御徳用ナ㋡ノ玉炭
一、玉炭　大箱壹箱　金貳圓
配達ハ一俵ヨリ致シマス
平驛前
㋡阿部石炭商店
電話二三七番

夜間診療
胃腸
内科
十二指腸虫病
專門
内科部
梅毒
淋病
婦人病
皮膚病
專門
外科部
松村胃腸病性科醫院
（平町南町電話一〇七番）

愈々近日に迫る 後任助役推薦
結局輸入と内定した 伏見町長の吐裡

平町助役は前助役佐藤要四郎氏が四月八日滿期退職して以來すでに二週間差しあたりその後任者もなく空席のまゝになつて居たので其後任は或は現町議中より適任者をあげるでないかと噂され或は現町役場吏員中より昇格を見るではないかとも噂せられ最近にいたつては新町議當選後にその詮衡をゆづるではないかとも見られその眞相は何人も豫測し得ずあつたが伏見町長としては繁劇なるべき町議職以前に是非其後任助役を物色し事務の圓滑を計るべくほぞをがためて居りかねてより其人物の選考につき腐心した結果町議中より推薦するとせば政黨的に面白からぬ空氣の醸生する惧れあり此際全く關係なき局外者より物色すべく輸入候補なる某方面に對し秘密裡に交渉中だつたが此程漸く大体の了解を得たので來る二十五、六日頃開催される後任助役推薦協議會には第一候補として右輸入候補を推薦する模樣であるらしい

五月初旬には 決定 伏見町長の談

平町助役推薦につき伏見町長は語る

町會議員中よりとするもの、役場部内よりと更らに全然局外より輸入せんとの三個の案に苦しんだが帶に短かし襷に長しの譏りがあり殊に町會議員中よりの推薦は政黨的に面白からぬ空氣を醸生する惧れがあり部内よりの昇格も至極結構だが部内となれば種々の異論もあるものと見ねばならず困つてゐるが」今や町長の肚は輸入に決めた如き意を言外に洩らしてゐたが何れ五月上旬には推薦の町會を開く筈である

きのう夜にかけ 今年一番の暴風
風速十八米九を數ふ 小名濱測候所發表

石城地方一帶は二十一日來の雨が嵐となり二十一日朝來物凄き暴風が見舞ひ女子供等の屋外歩行を許さない程であつたが右に關し小名濱測候所の觀測に依ると晝間が最も強く午前十時より午後四時までの烈風風速十八米九を數へ本年に入つてからの第一番の暴風であつた氣温は烈風中最低十七度で夜間は午後九時頃が一番の強風で此の風の起つたのは能登半島附近に七百三十四ミリ低氣壓が起り北東に向つて運んで來たので石城地方が最もその余波を受けた結局でけふは七百二十七ミリに低下したから夕刻までには全く止む筈であるが小川村上小川地内の電柱二本根本からへし折れた外人畜に支障はなく農作物に就て神谷農事試驗場の調査に依れば大した被害は無いが果樹類で桃が開花季なので多少被害はあつた樣だ柿も發芽時だから被害も相當大きいだろう麥作野菜は大丈夫であると

平消防組で 非常出動
電柱が折らる

暴風につき萬一を警戒する爲め平消防組、火防組では二十一日夜來出動警戒した

保安林植林
平營林署で執行

平營林署では本月上旬より管内山林約三百町に亘り百萬本の杉、檜、赤松、黒松大島櫻の新植、保植をなしてゐるが黒松、大島櫻は主に保安林的山林に植ゐるもので又は礦山附近に植ゐて他の樹木のため煤煙害を防ぐ爲めである保植も本月末まで施行する豫定で之に要する人員は署員約三十名人夫約七千人を要すると

憎くきのうの雨に 荒された松ケ岡
然し尚ほ遲れ咲きで 玆々當分は賑か

平町松ケ岡や新川の櫻は滿開もすぎチラホラ風たきに散す風情の極致となり二十一日の日曜は一番の見頃として各方面の觀櫻の計劃、あり掛茶屋等も腕によりをかけて當日を待ちあぐんでゐたところ二十日來の雨は折角の日曜を朝から臺なしにした許りか近頃珍らしい暴風で花は無慘にも吹き飛ばされて了つた、今二十二日は辛じて朝來天氣もよくきのうの仇を取つてウンと飲まふとする粋客連や家族伴れの花見客が午後からッ〜と出掛け相當に賑つたゝめの無風情な嵐は花の總てを飛ばし花見る人をして怨ましめてゐるが。天候の回復と共に吹き殘りの花も後を追ひ所謂花は葉櫻に限る式の粋客連はこれから尚ほ幾日かの松ケ岡を賑はせる事であろう

植田町納稅 表彰式
終つて觀櫻會

植田町役場では二十三日午前十時より管內納稅組合の代表者(植田納稅)小宮山要吉(昭和納稅)渡邊毅一(植田公德)小川福太郎(佐糖納稅)會川熊治(小濱納稅)渡邊國之助(天神町納稅)小野忠衛その他三十名を町役場に召集し功勞者の表彰その他をなし午後より八幡公園に於て觀櫻會を開く筈

子供を產んだ所が 男は知らぬ顏
小名濱生れの旅の女が 警察署へ保護願

石城郡小名濱町字古港作次郎長女當時山形市七日町某旅館女中關山さと(二五)は二十日午後山形署に出頭「無情な男に捨てられ子供を抱へて全く困つてしまひました、どうか子供を引取るやう男に說諭して下さい」と願出た、佐藤部長が事情を聞いて見るとさとは一昨年春から東村山郡山寺のホテル、天童温泉の二見屋等で女中として働いてゐるうち天童町雜貨商荒木清(二七假名)と懇になり清は妻子あるにも拘らずさとを妻にすると言ふので兩名は關係を續けてゐたがさとが妊娠した爲め女中働きも出來なくなり女髮結を始めて生活し本年二月男兒を生んだので清に引取つて貰ひたいと交渉したが男はこの時からさとを見捨てゝしまつたので仕方なく山形に出て來て市外の農家に子供を預け前記旅館に女中奉公したところ子供を預かつた農家ではこれから忙しくなるからとて子供を返してよこしたので又々働きが出來なくなり困り切つて願ひ出でたものと判つた

製炭所は植田

平營林署の三阪村貝泊、石住村の官行製炭は五月までに終る筈でそれまでには他に製炭所を替るが大体植田町に決定するらしいと

入山觀櫻會
二十二日松ケ岡で

湯本町入山採炭會社々員百七十餘名の觀櫻會は二十二日午後一時より松ケ岡公園尼子亭前の廣場で開き平、湯本紅裙數十名酒間を斡旋し非常の盛會であつた

植田一圓釣り

石城郡植田町大字東田の溜池は同地青年團の經營にて毎年數萬尾の鯉を放し飼養してゐるが來る二十四日より一ケ月間希望者の釣に任せる事となつた一日料金一圓である

植田產婆總會

植田署管内に於ける產婆春季總會は二十二日午前十時より同署に於て開會すると

祭典研究視察

平町青年團長馬目武之助、多田井笑次郎の兩氏は二十二日午前六時半平驛發にて相馬郡小高町の妙見神社の祭典研究視察に向つた

落盤慘死
三井の採炭夫

石城郡磐崎村三井炭坑採炭夫三春町生れ金木仁佐吉(三〇)は二十一日午後十一時頃坑內で作業中落盤のため頭部を紛碎して即死した平署では二十二日檢死した

芳醇銘酒　白鶴

春の歡樂に　品質本位の

どうぞ御用命の程願上ます

辰ノ口本家　平窪　松本德一　電話(平)七五二一番

勿來の青年 旅で行倒れ
保養院に送る

石城郡窪田村大字酒井清水誠治(三六)は二十日午前一時頃山形署に「私は死にそうです、どうかおたすけ下さい」と願ひ出た係官が署内に引入れて見ると全くつかれ切つて死にそうになつてゐるので寢室に入れて保護を加へ取調べたところ青年は癩患者で以前は鐵工などをやつた者だが体が益々惡くなるので最近青森の係養病に入院すべく決心し十九日郡山警察署に旅費を貰ひに行つたが我身を恥ぢて癩患者としての手續をなさなかつた爲め行路病人として山形まで旅費きり與へられず同日午後六時山形驛に降りたが、サテ行くところはなし懷中無一文とて全く困り切り思ひ切つて山形署に飛込み事情を打明けたもので目下矢口野長が正規の手續きを作製、青森の保養院にやることになつた

大塚家の不幸

平町田町大塚運動具店主大塚凰三郎氏令閨フジ子氏は病氣加療中の處二十日午後七時永眠したが葬儀は明二十三日午後一時自宅出棺執行の筈

平町人事

△婚姻　平町胡摩澤落合富司(二四)草野村大字下神谷字二合地富岡フヂヨ(二三)

△出生　平町八幡小路杉本翠長女典子

取消

拜啓時下春陽の砌貴社愈々御隆昌の段奉賀上候却說本日電話を以て御話申上げ置き候植田町に關する記事は事實と全然相違致し居り候樣の次第是非御取り消し相成樣願度此の段以書中御願申上げ候

福島縣石城郡植田町長代理助役　小野忠衛

磐城新聞社御中

郡下の政戰況
變り種の新顏

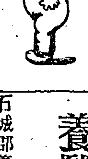
石城郡下に於ける町村會選擧期日も愈々接迫して來たので各方面共に戰雲漸次濃厚となつてゐる、殊に漁港實現小漁港の實現等々大問題が片ッ端から片付いて大商港大都市の實現を目前に控へ新興の氣運に包まれてゐる小名濱町の如きは町會改選の**結果**に依り影響する處甚大である爲め改選結果は郡內各方面から頗る注目されてゐる。即ち改選期日たる六月十七日まで約二ケ月の時日を有してゐるが既に戰雲頗りに動いて暗々裡に潜行的運動を開始したへもあり平、內郷、湯本等と共に郡下の激戰地を以て目されるに至つた同町から名乘を上ぐるものと觀られるのは大體次の如くで

大御所　小野晋平君を中心とする一團即ち現在十八名の異色なき全員中二三を除いて大半は出馬すべく依然として政友派の絕對地盤を誇るものと豫想されてゐる即ち現町議中、小野晋平君は出馬再選共何人もこれを妨げ得ない處で同君を取り巻く、中野鐵之助君、小野務平君、馬上德次郎君、立花雄七君、江尻甚太郎君、小濱長太郎君、岡山重喜君、草野良太郎君、堀越新平君、松本德次郎君、野上竹次郎君、飯塚榮一君なぞは出馬再選殆んど確實と言はれてゐるが飯塚君は町議中での元老格でもあゝだけ或ひは

令弟　の飯塚藤右衛門君に讓つて出馬を見合せると共に自分は食指動きつゝある振興小名濱町長たらんとし其の椅子を覘ふかもし知れないと言はれてゐる、次は小野德藏君だが出馬は確實。出馬不明の人に野崎長次郎君(現)がある多分今度は勇退して野崎正太郎君が出馬するらしく、水野政次郎君(元)も呼聲高い。之等鐵壁を向ふに廻さんとする一團の野心家が現れた即ち例の昭和會で小野氏の大勢力と對峙して勝敗は頭から問題にせず出馬すると**觀ら**れる人に同會の小島竹次郎氏と菅原彌作氏があり民政黨系の昭和會か何の邊まで肉迫できるかは興味ある問題、其れに中立を看板にして熊谷寅次郎氏の出馬も確實と言はれてゐる

鬪爭深刻
石城の無產黨

常磐地方に於ける社會民衆黨、大衆黨、舊勞農系の一派が石城郡下の町村會選擧戰を目前に一大飛躍を開始した際は既報の如くであるが、その後前記無產派三黨の活動は愈々猛烈となり、殊に**社民**黨の如きは過般常磐聯合支部の結黨式直ちに大衆舊勞農黨の勢力を驅逐すべく各方面に亘つて挑戰し猛闘を續け今や內郷村の磐城炭礦を中心に約七百名の黨員を獲得する至つたと傳へられてゐるが社民黨は更に今次町村議戰には唯一の地盤たる內郷村は勿論平町、好間村、湯本町、磐崎村等にたいて多數の新議員を送るべくあらゆる■策を以て一路此れに向つて活動を續けてゐるが社民黨の此の大飛躍に刺激された大衆、舊勞農の二黨も此れまた社民黨の**切崩**しに努め飽まで現勢以上に勢力を伸張して同じく議席を獲得せんと必死の活動を開始するに至り選擧期日の切迫に從ひ常磐地方にたける無產各黨の勢力擴張の黨員獲得運動は猛烈化するに至つたが此等新興無產各派の飛躍を知つた平署では頗る緊張し極度に神經を尖らしてゐる



平町前年の生產品 二百萬圓を突破
主要生產品別

昭和三年度中に平町に生產され市場に送り出された主要物產金額は總計二百二十一萬八千三百四十圓に達し前年に比し實に二十萬圓の大增加を見た主要物產並に金額左の如し

△味噌三十三萬千二百圓△木製品三十萬九千六百六十一圓△工產品二十二萬千八百六十四圓△醬油十七萬六千三百圓△菓子十九萬四千九百三十五圓△皮製品三萬八千五百十圓

養蠶教師協議
きのう郡役所で

石城郡養蠶教師協議員は二十一日午前十時から平町元郡役所に於て開催の議案につき協議を重ねた

△指示事項

一、桑園改良に關する件

二、飼育法統一に關する件

三、共同施設奬勵の件

四、上簇改良に關する件

五、蠶新品種普及に關する件

六、きやう蛆發防驅除に關する件

△協議事項

一、夏秋不作對策の件

二、町村蠶業技術員協議會開催の件

三、講習講話會開催の件

かみくづ

◈壺坂の掛合とあつて「相勤めまする太夫湖月の湖蝶と開花の友奴、先は其爲め口上左樣ッ」これは宴會の待合席の餘興なのだ◈アレで肩衣を着けて踏臺を豪ケッにそてゝガン張るとチビも見わずに立派なものだ流理で目頭を上げて喜んでわ男があつたせ、白酒でも奢れよ胡蝶◈惜しい事に際量がないので四疊半式だとつたら、あれは廓育ちだからだと聽かされたそれちや牧場に放し飼にすりやよかつた◈トニカク新田町に於ける胡蝶の存在はホコリであらねばならぬ、ナアニ吹けば飛ぶようだからホコリといふのではないぞ◈文句を言はずに一杯つげ。

荊妻フヂ子儀永ラク病氣ノ處藥石効ナク去ル廿日午後七時拾五分死去致候ニ付生前辱知各位ニ謹告仕候

追テ葬儀ハ明廿三日午後一時自宅出棺佛式ヲ以テ相營ミ申可器儀ナガラ紙上ヲ以テ御通告申上候

昭和四年四月廿二日

平町田町

喪主　大塚凰三郎

親戚總代　佐藤榮吉

長春院送葬の際遠路態々御會葬被下且つ御香奠を賜り難有御禮申上候乍失禮紙上を以て御挨拶迄申上候

昭和四年四月二十二日

平町五丁目

男　植村喜一

親戚總代　星野庸治

有聲座出張　於四倉座

廿四日 廿五日　◎兩日封切映で大公開

マキノ特作マキノ省三指揮傑作　**江戸兒**　谷崎十郎　高木新平……主演　助演……新見映郎　マキノ潔

大帝キネ特作　明石綠郎主演　**武道流血記**　嵐璃德　高津愛子……助演

松本田三郎大力演　**登龍**

キング連載吉川英治原作　片岡千惠藏身血傾注篇　續第二篇　**萬花地獄**　封切

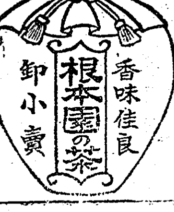
世になき筈の山田飛車兵衛の出現三日之助の手より光江姬を救ひ出す角太郎を繞ぐるに妻お吟の三角關係、草津峠に於て罠に落ち込んだ角太郎の受難、破亂重疊劍戟爭鬪!

根本園の新茶賣出し

四月廿二日より

香味馥郁たる新茶正に千金の値打あり長壽を欲する御人は御早く召し上れ

◎新茶は(ウイタミン)多量に含有す

平町四丁目

根本園茶店